

ンをそろえることが、地方の博物館の重要な役割であると考えている。そのために、今後も県内各地で計画的に採集を進めることや、標本寄贈の積極的な受け入れを行っていく必要がある。

しかし、当館においても収蔵スペース不足は深刻な問題となっている。ここ2年ほど大きなコレクションの寄贈が続き、2016年は約39,000点、2017年は約12,000点の昆虫標本を受け入れており、今年度も数千点の標本を受け入れている。これらの標本については柵の追加や動物剥製の収蔵棚を整理するなどして仮置き場を確保したが、もはや小手先の対策では対処が難しい状況である。また、標本を配架している電動棚が老朽化し、動きが悪くなっているところが出てきたが、部品交換用のパーツがメーカーにも残っていないため、いつ完全に停止してしまうか薄氷を踏む思いで使用している。しかし、収蔵庫の増設や改修については、未だに具体的な計画が立てられる状況になく、これらの問題の解決について明確なビジョンを持っていない。

寄贈された標本の整理、同定は主に研究協力員や岩手虫の会のボランティアなどの協力を受けながら進めている。しかし、チョウ目など愛好家の多い分類群を除き、地方では昆虫の専門的な同定を行うことができる者は少ないため、寄贈される標本数の増加ペースに対応できず、やむなく長期間整理待ちとなっている標本も多い(図9)。これまで当館に分類学の専門家が昆虫担当芸員として着任したことはなく、主に県の教育委員会から派遣された生物の教員が担当してきた。この中には、筆者の一人、渡辺のように、分類学的なトレーニングをほとんど受け

てこなかった者もあり、寄贈された昆虫標本の整理が進まないことの一因となっている。今後、専門的な技能を必要としないデータ入力や、再同定済みの標本の整理等については、アルバイトを雇用するなどして標本整理を推進したい。筆者らも更に標本整理に力を入れ、貴重な標本が多くの人々の研究に使えるよう整理を進めていきたい。

謝辞

これまで当館に標本を寄贈してくださった方々、標本の整理に協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。また、執筆の機会をいただいた本誌編集委員の奥島雄一氏(倉敷市立自然史博物館)に感謝する。

引用文献

- 千葉武勝, 2018. 岩手県内から記録された昆虫の種数. 岩手虫の会2018年2月例会資料.
 春子谷地生物調査グループ(編), 2008. 春子谷地生物相調査報告書, 84 pp., 春子谷地生物相調査グループ, 盛岡市.
 春子谷地生物調査グループ(編), 2010. 春子谷地生物相調査報告書2, 48 pp., 財団法人岩手県文化振興事業団, 盛岡市.
 奥 昭夫, 2000. 二戸市の自然1, 153 pp., 岩手県二戸市まちづくり推進課.
 奥 昭夫, 2011. 二戸市の自然2, 126 pp., 岩手県二戸市市民協働部地域づくり推進課.
 大平仁夫・中村七三, 1970. 岩手県産鞘翅目仮目録2, 36 pp., 岩手甲虫学会, 盛岡市.
 佐竹邦彦・笠原須磨生, 1985. 岩手県のゴミシ類, 岩手県立博物館研究報告, (3): 169-194.
 渡辺泰明・佐藤光子, 1968. 岩手県産鞘翅目仮目録1, 25 pp., 岩手甲虫学会, 盛岡市.

(2018年8月27日受領, 2018年9月8日受理)

【短報】ケシマルムシ属微小甲虫を神奈川県で採集

ケシマルムシ科 Sphaeriidae は、ツブミズムシ亜目 Myxophaga を構成する科の1つで、単一のケシマルムシ属 *Sphaerius* から成る。本属は南極大陸を除き広く分布しているが、世界でわずか23種しか知られていない小さな分類群である(Mesároš, 2013)。ケシマルムシ属の一種 *Sphaerius* sp. は、以下に述べる通り、国内でこれまでに4例の採集報告がある。今回、筆者は新たに神奈川県平塚市で本種(図1)を採集したので、ここに報告する。

1 ex., 神奈川県平塚市寺田縄(県立花と緑のふれあいセンター), 27. VII. 2018, 平野幸彦保管; 1 ex., 同所, 13. VIII. 2018, 筆者保管(いずれも筆者採集)。

採集場所は、平塚市にある通称「花菜ガーデン」の敷地内にある水田である(図2)。上記の記録に数日先立ち、7月21日に同所を訪れたところ、水

田内にチビゲンゴロウやキベリヒラタガムシが多数動き回っているのを確認した。他に何かおもしろい虫はいないかと、水際の泥をスプーンで浅く削り、水と掻き混ぜて水面に浮いてくる微小甲虫を探していたところ、1時間ほどの探索で、本種と思しき個体を3頭得ることができた。しかし、そのあまりの微小さゆえうまく標本化できなかったため、後日同所を訪れ、上記の通り追加個体2頭を得た。体長はいずれも約0.7 mm と大変微小で、水面に浮いた個体は丸くツヤのある甲虫らしきものとして目視でギリギリ判別できるレベルであった。追加個体はいずれも2時間ほど探索してようやく得られたもので、個体密度はそれほど高くないようである。

実体顕微鏡で観察すると、触角先端は球桿状で、球桿部に長毛が生えているのが確認できた。(図1)。



図1. *Sphaerius* sp. (神奈川県産).



図2. 採集地の水田 (神奈川県立花と緑のふれあいセンター敷地内).

これはケシマルムシ属の顕著な特徴である (Hangay ら, 2010). 亀澤ら (2012) は, 東京都産ケシマルムシ属の実体顕微鏡および電子顕微鏡による形態観察結果を詳説しており, 今回採集した個体の形態も, 実体顕微鏡レベルでその記述によく一致している. しかし種名までは同定できなかったため, ケシマルムシ属の一種 *Sphaerius* sp. とした.

Sphaerius sp. は日本においてこれまでに愛媛県 (酒井, 2001), 栃木県 (大桃ら, 2008), 埼玉県 (新井, 2011), 東京都 (亀澤ら, 2012) で記録がある. 今回のも含めて過去の記録の採集環境を整理すると,

- ・愛媛県産: 重信川の堤防に堆積した洪水ゴミの中
- ・東京都産: 多摩川の水際の石の下
- ・埼玉県産: 荒川上流域の断崖の湧水
- ・栃木県産: 鬼怒川および西荒川の水際の泥
- ・神奈川県産: 水田の水際の泥

となっている. これらの記録が全て同種かどうかは不明であり, 愛媛県産の個体は元の生息地が不

明であるが, これらの記録から, 本種は生息環境については案外ジェネラリストで, 場所を問わず極浅い水界を好むらしいことが示唆される. 本属の生息環境については, Hangay *et al.* (2010)に, 小川や湿地の水際にある湿った泥や砂, 砂利の中, また水没した流木や石の下から見つかるとの記述があり, 上記日本産の生息環境と概ね一致している. 一方, 埼玉県産のように湿岩環境にも生息する旨の記述は見当たらず, 興味深いところである. また, 南アフリカ産の *S. africanus* は, 水界から離れた森林で採取したりターの中や, カーネットを用いて空中から得られている (Endrödy-Younga, 1997). 今後の調査における探索場所や採集法として留意すべきである.

本種は, その微小さゆえに発見も困難で, 研究も進んでいないようであるが, 上記発見場所を考慮すると, 実際は身近な水界に生息する普通種である可能性がある. 同好諸氏による調査で, 国内の本種の分布や生態, 効率的な採集方法について知見が得られることを期待したい.

補足ながら, 本種の採集は, その生息密度の低さもあって, 同じ場所で長時間水面を凝視して探索する必要があるため, 大変根気が要る作業となる. 適度な気候の日を選ぶ, 折りたたみの椅子を用意するなど, 無駄に体力を消耗することがないように工夫されたい.

末尾ながら, 標本を確認いただきケシマルムシ属の示唆をいただいた平野幸彦氏と, 関連する文献をご提供いただいた亀澤洋氏に感謝申し上げます.

引用文献

- 新井浩二, 2011. 「埼玉県から新たに記録される甲虫類 (17)」の訂正. 寄せ蛾記, (142): 28.
- Hangay, G. & Zborowski, P., 2010. A Guide to the Beetles of Australia. 238 pp., CSIRO Publishing, Collingwood VIC.
- Endrödy-Younga, S., 1997. Microsporidae (Coleoptera: Myxophaga), a new family for the African continent. *Annals of the Transvaal Museum*, 36(23): 309-311.
- 亀澤 洋・松原 豊, 2012. 東京都多摩川で採集したケシマルムシ属の一種について. さやばねニューシリーズ, (6): 25-27.
- Mesaroš, G., 2013. Sphaeriusidae (Coleoptera, Myxophaga) — A new beetle family to the fauna of Serbia —. *Bulletin of the Natural History Museum in Belgrade*, 6: 71-74.
- 大桃定洋・高橋敬一, 2008. 2006-7年に栃木県下で採集した甲虫類. *インセクト*, 59(1): 17-26.
- 酒井雅博, 2001. 日本よりケシマルムシ科を発見. *雑甲虫ニュースレター*, (3): 5-6.

(齋藤孝明 243-0005 厚木市松枝 1-12-15-402)